

令和4年度 学校評価公表シート

学校法人あい学園
認定こども園あい幼稚園

I. 教育方針

生活習慣を身につける
社会のルールを身につける

自然とふれ合い優しい心を育む
命の大切さを学ぶ

II. 教育目標（目指す子ども像）

① 気持ちの良いあいさつや返事ができる子ども

朝の元気な「おはようございます」だけでなく、日常生活の様々な状況に応じたあいさつや返事は『正しい生活習慣が身につけてこそ』だと私たちは考えています。あいさつや返事はもとより、基本的な生活習慣の大切さに気づき、自分からすすんでできる子どもを目指します。

② 自然や命を大切にできる子ども

田園に囲まれた環境、海が近い町という立地を活かし、四季折々の自然体験を通して『土・水・緑・動植物』など様々な『命』とふれ合いながら、それらを大切にできる優しい心の子どもを目指します。

③ ルールを守り、自分で考えて行動できる子ども

社会にはあらゆるルールやマナーが存在し、日常生活を送る上でそれらを見守ることは決してできません。ルールやマナーは思いやりでもあると私たちは考えます。また、自分や他人の命を守るために必要なルールもあります。先生や友だちと一緒に園生活を送る中で、身近な「きまり」や「約束事」をはじめとし、様々なルールやマナーがあることを学びながら、自分で良いことと悪いことを考えて行動できる子どもを目指します。

④ 心豊かでのびのびと活動する子ども

子どもたち一人ひとりが、命ある大切な存在です。また、誰一人として同じ子どもはいません。あそびの中で、こうした一人ひとりの興味・関心・意欲を引き出しながら、自己肯定感を高めていくとともに、自分自身や仲間の個性を尊重できる子どもを目指します。

III. 自己評価項目と取り組み状況

A：出来ている C：一部出来ていない
B：おおむね出来ている D：出来ていない

自己評価項目		評価	取り組み状況	今後の課題
1	教育方針及び教育目標をわかりやすく伝えているか。	B	SNSやICTシステムを活用し、幼児の成長を教育方針や教育目標に紐づけて伝えるよう努めているものの、『わかりやすく』という点においては十分に出来ているとは言えない	できるだけ短い文章、またわかりやすい言葉を使って伝えるよう努める。また、言葉で表現することに難しさを感じている教職員も多いため、普段から職員間で言葉にして伝え合う習慣を身に付けていく。

2	幼稚園教育要領および園の教育方針に基づき、地域性等を考慮しながら特色を生かした活動を行っているか。	B	教師間で連携を図りながら立地や環境を生かした保育に取り組むことが出来ている。教育時間の保育と午後保育のつながり、またその充実も念頭に置いて取り組んできた。	教育時間の保育と午後保育の懸け橋となる教職員を配置し、より計画的に取り組んでいきたい。
3	季節や幼児の活動などに合わせて、安心して清潔感のある環境を準備しているか。	B	以前に増して園内の環境を意識しながら整えられるようになってきたものの、行事前などには余裕がなくなり乱雑になる箇所もあった。園内に美化衛生委員を配置したが、まだ十分に機能させられていない。	安全点検は従来通り定期的を実施し、園内の美化衛生に関しては委員を中心に一人ひとりが自分事として意識しながら見ていくように努めていきたい。また、それを習慣づけていく。
4	教師は指導方法や幼児理解について、充実した研究や研修を行っているか。	B	例年、園内外の研修には積極的に参加している。また、研修で得た情報は職員間で共有している。自園で活かせるような内容、取り入れたい活動等に関しては、早期に共有、実践するようにも努めている。	次年度は、より実践に活かせるような研修(園内)も増やしていきたい。
5	育ちを促す環境構成や援助の工夫をしているか。	B	教師間で情報を共有しながら、共通理解のもと教育・保育に努めてきた。意見交換の機会は増えたものの、行事前など特定の時期には十分な環境構成が行われずあそびのコーナーがマンネリ化したり、幼児のあそびが継続せず途切れがちになったりすることもあった。	年齢に応じた育ち、また今必要な経験は何かを常に念頭に置き、幼児にとって居心地が良いと感じられるような環境、また『わくわく』するような環境づくりに努めていきたい。
6	教師は日々の教育において評価・反省を行い、次の指導に生かそうとしているか。	B	ICTシステムを活用し、日々の評価・反省を教師間で共有することが出来るようになり、意見交換する機会も増えた。また、それらを活かす場面も多く見られた。	今後も継続してこれらに取り組んでいくと共に、評価・反省が日記になってしまわないよう、管理職や経験豊富な教職員の助言も参考にしながら努めていきたい。
7	繰り返し援助・指導することで、幼児には基本的な生活習慣が身についているか。	A	年齢、また一人ひとりに応じた援助・指導を心掛けると思に、家庭とも連携を図りながら取り組んでいることにより、個々の成長に応じた生活習慣は身に付いてきていると思われる。	今後も保護者との信頼関係を築きながら、家庭とも連携を図りながら一人ひとりに応じた援助・指導を行っていきたい。
8	教師は季節に応じた生活の仕方について、幼児が気付くような援助に努めているか。	A	絵本や紙芝居などの教材を活用したり、教師がモデルとなったりしながら、幼児が自分で気付いたり考えたりできるようなかかわりに努めてきた。また、視覚的にわかりやすいような掲示物の工夫なども行った。	今後も継続して、年齢に応じた声掛けや援助に努めていく。
9	気持ちのよい挨拶や返事ができるように、教師が率先して実践しているか。	A	まずは教師がモデルとなり、気持ちのよい挨拶、返事を実践するよう努めている。また、幼児はその日の体調や家庭での出来事などによって、登園時の様子に変化が見られることもあるが、その変化を見逃すことのないよう、一人ひとりの表情にも意識を向けながら挨拶するよう努めている。	今後も常に意識をしながら、幼児の手本となるべく努めていきたい。
10	幼児は園生活を楽しくし、のびのびと活動しているか。	A	幼児の興味や関心を見逃さないように努めたり、つぶやきに耳を傾けたりしながら、園生活を「楽しい」「おもしろい」と感じてくれるよう努めてきた。幼児は園生活の中で、友だちや先生と一緒に遊んだり活動したりする楽しさを感じるとともに、時には葛藤したり友だちとぶつかったりしながら心身共に成長していると感じている。また、保護者からも好意的なお声をいただくことが増えている。	今後も一人ひとりの興味や関心に目を向け、耳を傾けながら、幼児の主体性を引き出せるようなあそびや活動を展開していきたい。
11	保護者が安心して相談できる信頼関係づくりに努め、適宜、情報提供を行っているか。	B	ICTシステムを活用し、昨年度より多くの情報提供を心掛けてきたことで、保護者からの喜びの声や相談が増えてきた。	改善は行ってきたものの、職員によって個人差もあるため十分とは言えない。今後も職員間で声をかけ合いながら努めていきたい。
12	保育園、小学校と相互の専門性を生かし、幼児の育ちを保证するための交流を行っているか。	C	感染症対策も問題もあり、十分な交流は持てなかった。	状況に応じて小学校等へのアプローチを行っていく必要がある。新型コロナウイルス感染症の5類移行後は、各機関の動向を確認しながら、可能な交流方法などを検討していきたい

13	地域での体験活動や行事に参加し、様々な人とかかわりながら教育活動を進めているか。	B	地域の行事等には可能な限り参加し、交流を図ってきた。昨年度までと同様、手紙や贈り物などを通して高齢者施設とのやりとりも継続して行っている。	今後は感染症対策に気を付けながら散歩などの機会も増やし、より地域活動への参加を進めていきたい。
14	幼稚園教育を家庭や地域に生かすために、子育て支援の活動(ジュニアクラブの実施や園だよりでの情報提供など)を行い、専門性を発揮しているか。	B	前年度までは感染対策のため活動の機会そのものが減少していたが、今年度は可能な限り実施することができた。図書の出出なども継続して実施している。	職員の専門性をより活かした活動計画を立てるなど今後も改善していきたい。また、おたよりによる情報提供の内容や育児等に関する貸出図書の追加なども検討していきたい。

IV. 今後取り組むべき課題

今後はコロナ禍により縮小・中止されてきた園行事を、従前に戻していきつつも更にブラッシュアップしていくことが必要になってくると予想される。そのためには教職員がより高い意識を持って教育・保育に臨まなければならない。

日々の保育における環境構成や教育・保育計画、行事の運営などで疲弊してしまっているのは、質の高い教育・保育を提供することはできない。業務の効率化を図り、園全体がチームとして機能していくことが課題である。

また、自園の教育・保育について研鑽を重ね、新任教員の育成にも努めていかなければならない。